

平成 29 年度 第 1 回 佐世保市図書館協議会 会議録

1. 日 時 平成 29 年 11 月 15 日 (水) 午後 4 時 30 分～午後 6 時
2. 場 所 佐世保市立図書館 3 階 視聴覚室
3. 出席者 ○佐世保市図書館協議会委員 (定数 5 名) (出席 5 名)
 - ・学校教育関係者 井上 道哉
 - ・社会教育関係者 喜多 祥浩
 - ・社会教育関係者 樋渡 憲三
 - ・家庭教育関係者 櫻井 英子
 - ・学識経験者 落合 知子○事務局 (出席 3 名)
 - ・図書館長 前川 直也
 - ・館長補佐 坂口 周一
 - ・図書第一係長 熊本 立人

4. 挨拶 (図書館長)

本日は、公私ともにお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。

当館は最近、新聞報道等で紹介いただく機会が多くなっており、利用者の方からも最近良くなってきた、イベントが開催されるようになって楽しくなったといった声をいただくようになって

いる。
これもひとえに、委員をはじめとし、市民の皆様のおかげであり、少しずつ良い方向に向かっているのではないかと感じている。

本日は、本協議会委員の委嘱状を交付させていただくが、今回の任期は平成 31 年 9 月 30 日までの 2 年間となっている。

委員におかれましては、様々な立場・視点からご意見・ご助言をいただき、さらに市民に愛され、より良い図書館として参りたいと考えているので、よろしく願い申し上げます。

5. 委嘱状交付

6. 会長選任

委員からの推薦により、櫻井委員に決定

7. 議題

(1) 平成 28 年度事業報告について

《 説 明 》

～ 事務局から配布資料に基づき、平成 28 年度図書館運営事業決算状況の報告 ～
(特記事項として)

・予算額 1 億 3,539 万 3 千円に対し、決算額 1 億 3,348 万 2 千円 差額 191 万 1 千円
内訳として、

「施設管理」 予算額 34,613 千円 決算額 33,794 千円

「運営」 予算額 64,381 千円 決算額 63,484 千円

「図書館資料費」 予算額 33,602 千円 決算額 33,561 千円
「郷土研究」 予算額 2,797 千円 決算額 2,643 千円

(平成 28 年度主な出来事について)

- ・平成 28 年 4 月 前委員による佐世保市図書館協議会から「佐世保市立図書館の利便性向上について」答申を受ける。
- ・平成 28 年 5 月 ゴールデンウィーク 図書館まつり 及び 第 1 回ビブリオバトルの開催
- ・平成 28 年 8 月 「佐世保市郷土研究所 50 周年記念講演」開催
- ・同月 第 2 回ビブリオバトル開催
- ・平成 28 年 9 月 「英語 de 夕活」第 1 回目開催
- ・同月 「ルーク先生と英語で遊ぼう」幼児～小学 3 年生が対象
- ・平成 28 年 11 月 第 3 回ビブリオバトル
- ・同月 市民の文化作品展示開始 (中 2 階)
- ・同月 特別上映会 平成 28 年 11 月以降毎月第 4 日曜に開催
(英語・音楽・バリアフリー)
- ・平成 29 年 2 月 「ようこそ！赤ちゃん&子どもフェスタ」出張対応
- ・同月 第 4 回ビブリオバトル
- ・同月 吉井・鹿町各地区公民館での図書館資料の取り寄せ・返却受付開始
- ・同月 2 階児童室トイレの洋式化・洗浄便座及び手指乾燥機の設置
- ・平成 29 年 3 月 英語 de キッズ開催 (国際ソロプチミストパール佐世保主催)
- ・同月 英語版おはなし会開催 (米海軍佐世保基地放送局によるボランティア)

《 質 疑 》

委 員：事務局から説明があったが、委員の方から何か質問・意見等があればお願いしたい。

委 員：新規の事業、特に乳幼児・小学生を対象とした事業が網羅されており、図書館の活性化を図っている様子がよくわかる。

委 員：本が好きの人、固定した人を対象としたものだけではなく、子どもたちをはじめとし、さまざまな市民の関心を集めるような取組をしているということを感じた。

委 員：長崎国際大学で開催された出張講義の件など、記載がない項目があるようだが？

事務局：今回報告した内容は、主な項目に絞っており、詳細は配布の冊子「佐世保の図書館」に記載をしているので参照を願いたい。

委 員：「ようこそ！赤ちゃん&子どもフェスタ」開催後、特に、乳幼児を対象としたおはなし会の参加状況に変化はあるか？

事務局：0・1・2 歳児・赤ちゃん向けおはなし会として、毎週木曜日午前 11 時から、2 階児童室おはなしの部屋にて「いないいないばあ」を開催しているが、参加者が増加し、部屋に入りきれないような状況になる場合もある。

参加者には、おはなしも聞いていただくが、終了後 30 分間は部屋を開放しているので、コミュニケーションの場として活用いただいております。常連客も多くなっています。

委 員：「ビブリオバトル」の開催が増えており、また、小学生がバトラーとして参加している回もあったようだが、これにより、若者世代の利用や関心には結びついているのだろうか。

事務局：当館でビブリオバトルを開催するようになったきっかけとしては、長崎国際大学の山本

教授が、ビブリオバトルの全国普及員をなさっているのだが、平成 28 年 4 月に、当館職員に対する講義をしていただき、以降、長崎国際大学とは連携をしながら取組を始めるようになった次第である。

平成 28 年 5 月に初めて「ビブリオバトル」を開催した際は、まずは図書館員が率先してバトラーとして参加したが、2 回目以降は利用者・市民からの申込によりバトラーとなって参加いただくようになった。そのなかには、70 歳を超えたご高齢の方や、視覚障がい者の方が、バトラーとして参加いただいた回もある。第 3 回開催では高校生の参加もあった。

今年度に入ってから、佐世保の中でももっとビブリオバトルを広げていきたいという考えのもと、図書館以外の会場でも開催するようになった。

本年 9 月には、させぼ五番街でビブリオバトルを開催したが、その際、バトラーとして小学 5 年生の参加が 2 名あった。市内及び周辺の自治体でも、ビブリオバトルを開催している学校、例えば、佐世保北中・佐世保北高・猶興館高校・波佐見高校があるとの情報を得たため、これまで、図書館で開催したバトラーのうちの上位者や、各学校からの選抜者などを参集し、平成 29 年 11 月 5 日（日）文化マンスのイベントとして、アルカス SASEBO にて市内大会を開催するに至ったところである。

これまでは大人のイベントという傾向が強かったが、バトラーとして小・中・高校生、短大生や大学生に参加いただいたことにより、今後、同じ世代の児童や学生たちへの参加が促進されていくものと考えている。さらには、参加した小学生・中学生が、学校内でビブリオバトルを広めようとしているとの話も伺っている。

取組を始めてまだ 1 年半程度ではあるが、このように、回を重ねるごとに、参加いただく年齢層も幅広くなり、底辺の広がりを感じている。

委員：この取組をきっかけとし、図書館を知ってもらえるようになると良い。

事務局：平成 28 年度取組のなかで特徴的なものとしてもう 1 点、「英語」に関するイベントが多く開催したことが挙げられる。

1 番初めに開催した、「英語 de 夕活」は、福岡アメリカンセンターの協力によるものである。もともと、福岡アメリカンセンターは、佐世保市内に米軍基地があることが縁で、平成 23 年度以降、洋書の寄贈をいただくなどの関係を持っていた。その福岡アメリカンセンターが、英語 de 夕活の取組をされているとの情報を得、本市でも開催できないかと模索をした結果、佐世保基地に勤務されている職員のご家族の方が、コーディネーターとして対応いただくこととなった。

基地の方と市民が交流する機会というのは、これまでなかなかなかったものだと思うが、この取組を契機として「英語 de キッズ（国際ソロプチミストパール佐世保主催）」や「英語 de おはなし会（米海軍佐世保基地放送局ボランティア）」などの開催ができるようになった。いずれも、相手方からの申し入れにより実現したものである。

英語 de キッズは、米海軍内の幼稚園の先生が、また、英語 de おはなし会は基地放送局の職員の方が対応されており、ネイティブな英語を幼少期から体験できるものとなっている。

これらの取組が、平成 28 年度を契機として始まったところである。

委員：決算報告資料のなかで、「運営」「郷土研究」の両方に、職員に関する支出の項目があるが、これはどのような理由で分かれているのか。

事務局：図書館で雇用している常勤嘱託職員・常勤パート職員の大半は、「運営」の予算にて対応しているが、「郷土研究」の予算にて常勤パート職員を 1 名雇用している。

当該職員は窓口業務も対応するが、主な業務として、市史編さんに向けた資料収集、及び、収集したデータのメンテナンス等となっている。

委員：図書館に関する佐世保市の予算というのは他都市と比較してどうなのか。

事務局：施設管理費に関しては、各自治体により施設規模が異なり、その状況はさまざまであるため、比較しにくいものだと思う。比較するとすれば資料費になる。資料費に関しては、県内では長崎市・諫早市・大村市に次いで4番目の額となっている。

例えば、当市は分館がないが、分館がある都市については、資料費が多い傾向にあると言える。このように、人口規模から考えて、4番目の位置が妥当であるかどうかということについては、一概に比較がしにくい面もあり、また、いろいろとご意見があるのではないかと思う。もちろん担当部署としては、増額させたいという思いはあるが、市全体の予算管理という観点からはなかなか思いどおりにいかないのが現状である。

(2) 平成 29 年度事業計画（案）及び実施状況について

～ 事務局からの配布資料に基づき、平成 29 年度実施計画（案）及び実施状況の報告 ～

- ・平成 29 年 4 月 祝日及び第 3 金曜日（整理休館日）の開館 及び 夜間開館拡大
- ・同月 市民ギャラリー開設（中 2 階）グループスタディコーナー（3 階）設置
- ・同月 館内飲食ルールの改正
- ・平成 29 年 5 月 第 2 回図書館まつり 第 5 回ビブリオバトル開催
- ・平成 29 年 6 月 児童室おはなしのへや行事の見直し
- ・平成 29 年 6 月～ 市内小学校への「調べる学習」支援開始
- ・平成 29 年 7 月～ 第 1 回佐世保市「図書館を使った調べる学習コンクール」開催
- ・平成 29 年 7 月 佐藤正午氏「月の満ち欠け」で第 157 回直木賞受賞 特別展示
- ・同月 「夏休み子ども落語会」「みなと de 図書館」「夏休み図書館探検ツアー」開催
- ・平成 29 年 8 月 市内在住絵本作家・イラストレーター にしむらかえ氏デザイン
新図書館利用者カード配布開始
- ・同月 「君が知らないトイレの世界」「夏休み史跡めぐり&古代技術に挑戦」
- ・平成 29 年 9 月 「みなと de 図書館 with ビブリオバトル」開催
- ・平成 29 年 10 月 「英語 de 夕活（2nd Season）」「図書館 deLIVE～ハロウィンナイト～」
開催
- ・平成 29 年 10 月～ 第 1 回佐世保市立図書館 POP コンテスト 応募総数 412 件（15 校）
カラーコピーサービス提供開始
- ・平成 29 年 11 月 「Communication in English」「マキばあちゃん朗読劇」
「プチ図書館（させぼ文化マンス）」「ビブリオバトル 2017 in SASEBO」
「親子読書の集い in 佐世保&第 10 回佐世保市立図書館おはなしフェスティバル」
「第 48 回児童生徒の郷土研究発表会」開催
- ・平成 29 年 12 月 「みなと de 図書館おたのしみ会（絵本で遊ぼう!）」
「暗闇チャレンジ（視覚障害者協会協力）」開催
- ・平成 30 年 1 月～ 「古文書解読初級講座」開催

《 質 疑 》

委 員：事務局から説明があったが、委員の方から何か質問・意見等があればお願いしたい。

委 員：イベント内容が多くなっているが、対応する職員の体制はどうか。

事務局：平成 29 年度についても、前年度に引き続き新規・改善事業は多くなっているが、例えば、本年 6 月からの児童室行事の見直しのように、すべての業務を増加させている訳ではなく、需要や利用者の要望等を見ながら拡大や縮小するものもあり、スクラップアンドビルドも行っている。とはいえイベントは増えており、全体として業務量は増加しているというのも事実である。

しかし、参加いただいた方から良い反応をいただくことにより、職員のモチベーション向上にもつながっている。職員からの提案により実施したイベントも多くある。

これまで、実現を模索していたようなアイデアを具現化する形で始めたものもあり、職員側もやりがいを感じながら取り組んでいる状況である。

もちろん、職員の勤務体制・ローテーションをうまく回しながら、勤務超過とまらない範囲で行っている。

委 員：図書館が「見える化」し、市民にとってわかりやすい動きになっているように感じている。

「調べる学習」の支援で小学校にも出向いているようだが、支援を受けた学校側の状況はどうだったか？

委 員：勤務している鹿町小学校に「調べる学習」支援として対応いただいた。

本校は図書館から離れた地域にあるため、図書館に行きたくない児童も多い。

支援の一環として児童を図書館に連れてきていただいたのだが、バックヤードの書庫まで見せていただき、所蔵されている本の多さに感動していた。

自分が疑問に思ったことの答えは、このなかにもどこかにきっとあるとの思いで、児童たちは一生懸命調べていた。小学生のうちに、このような経験ができたことは大変ありがたいと感じている。

委 員：全校生徒が受けることができたのか？

委 員：全校と言う訳にはいかない。5 年生・6 年生が受けた。

委 員：5 年生・6 年生であれば、自分自身の力で調べることができたのか。

委 員：この年代になると、調べたいことがある程度はつきりしてくるため、市立図書館司書の支援を受けて、個々の力で進めることが可能であった。

委 員：今年が初めての取組だったのか？

委 員：そのとおりである。その勢いで、夏休み期間中も児童が学校に来て、学級担任の支援を受けて、継続的に調べた内容をまとめたりしていた。

委 員：図書館職員の対応体制はどうだったのか？

事務局：児童室の職員を中心として対応を行った。

補足として、調べる学習コンクールの説明を申し上げる。「図書館を使った調べる学習コンクール」は、公益財団法人図書館振興財団が 20 年前から開催しているものであり、作品出展は、直接財団に応募しても良いのだが、地域コンクールを開催するという制度もある。

今回、本市においてこの地域コンクールを開催し、様々な取組を行った次第であるが、初年度については、財団からの助成もあり、ポプラディアをはじめとした百科事典など、調べる学習で活用可能な図書を購入した。

学校に対する支援体制を整えた上で、児童室職員 3 名を中心として、重点支援校 3 校を訪問し、テーマの考え方、百科事典の引き方やまとめ方などの講座を行った。

続いて、重点支援校 3 校の児童を図書館に招待し、児童それぞれが考えたテーマに対して本を探し、調べ、まとめるといった一連の流れを支援したところである。

また、市内の児童を対象とした講座も図書館で開催した。

本年度は 89 作品の応募作品があったが、入選作品のなかには、地域の歴史や観光、名前の由来など深く掘り下げて調べた作品もあった。とても内容が濃く、郷土資料室に資料としていただきたいくらいのレベルの高い作品もあった。

委員：市内の小学校からの図書館見学はあるのか？

事務局：毎年、図書館見学として、市内小学校から図書館への来館はあるが、市内中心部の学校が大半であった。

今回の取組では、図書館になかなか足を運ぶことが困難な地域を中心として重点支援校を選定したところであるが、この取組を終え、児童が喜んでいる姿を見ることができ、大変有意義に感じた次第である。

委員：次年度も継続して実施するのか？また、重点支援校は何校となるのか？

事務局：次年度も引き続き実施していきたいと考えている。しかし、重点支援校数については、予算との兼ね合いもあるため、検討した上で対応して参りたい。

(3) 「佐世保市立図書館サービス計画」策定及び市民アンケートの実施について

～ 事務局から配布資料に基づき説明 ～

- ・佐世保市立図書館で未策定である「サービス計画」の策定に向けて、現在検討中
- ・サービス計画の策定にあたっての基礎資料として市民アンケートを実施するもの
- ・住民基本台帳 16 歳以上から 3,000 人を無作為抽出し、アンケート協力依頼を行う
- ・アンケートは平成 30 年 2 月末までの期限として回収
- ・サービス計画は平成 30 年度末の策定を目指して検討作業中
- ・並行して図書館を利用している方を対象としたアンケートも実施予定

委員：子どもの意見というのはどう反映されるのか？

事務局：市民アンケートの無作為抽出という対象としては、16 歳以上となる。

これは、アンケート内容を、自身で把握、判断して回答するということを求めるとそうせざるを得ないところである。

しかし、並行して行う予定としている図書館の利用者アンケートについては、お子様連れの利用者からの意見をいただくことが期待でき、そこで挙げた要望内容等の実現可否を検討する必要がある。

また、意見集約のためには、アンケートだけでなく、子育て・子ども支援に関する団体や、図書館から離れた地域の代表者などへの個別ヒヤリングも必要であると考えている。

委員：アンケートを送付されるときには、図書館を知ってもらおうせっかくのチャンスだから、図書館だよりなどを同封してはいいか？

事務局：封入する資料の重さにより、郵便料金の変動するため、可能な範囲で対応を検討したい。

委員：設問 13 について「サ 職員の資質向上」に訂正 「ア 種類の」を削除

「シ 図書館施設の充実」⇒「改善」に訂正

委員：図書館を利用したことがない方を対象としたアンケートとしては非常に良い取組であると思うが、無作為抽出では、はたしてどれだけの回答を得ることができるのかという心配があると思う。一般的に、無作為抽出によるアンケートの回収率はとても低いものだと認識している。3,000人を対象としたアンケートということは郵送に係るコストも大きいのではないか。

無作為抽出によるアンケートがはたしてどれだけ効果的なのかということを懸念した次第である。

図書館がこのようなアンケートを行うこと自体に意義を求めるのであれば良いのだが、回答を得ることに意義を求めるのであれば、無作為抽出の手法以外に、確実に回答を得られる手法を検討することも必要なのではないか。

例えば、小・中・高校の父兄を対象としてピンポイントにアンケートを実施するとなると、確実に回収することが可能だと思う。

無作為抽出で得られる情報は有益であると言えるため、アンケートの実施そのものを否定するものではない。

事務局：いただいたご意見は参考とさせていただきます。

委員：無作為抽出の3,000人からどれくらいの回答があるだろうかということも大変興味深いところである。

事務局：他の部局の例でみると、おそらく2～3割の回答となるものと予測しているが、この辺りの回答数があれば、分析資料として活用ができるものと期待している。

委員：せっかくアンケートとして送付するのであれば、現状の把握資料として、「1ヶ月の読書量はどの程度か」「新刊が出た際にはどのような手段で本を手に入れるのか」といった内容を聞くことも良いのではないか。得られた回答を分析することにより、佐世保の地域性や読書に関する傾向などが見えてくるのではないか。

事務局：内部で検討させていただきます。

(4) その他

次回開催日について

平成30年2月～3月開催予定（別途、各委員の日程を伺い決定する。）

以上